

シーニックバイウェイ北海道
(仮称) 函館・大沼・噴火湾ルート



ルート代表者会議

エリアの概要

エリア市町村

新函館市
森 町
砂原町
鹿部町
七 飯 町
大 野 町
上 磯 町

エリアの主な幹線道路

国道278号
国道227号
国道5号
函館新道
道道函館南茅部線
道道大沼公園線
道道大沼公園鹿部線
道道函館恵山線

等



地域の資源

景観性

函館山の夜景

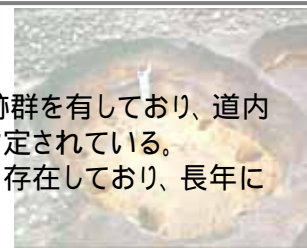
函館山の「世界一」と称されている夜景や、良好な自然景観、変化に富んだ海岸線など、道内有数の周遊観光ルートとしてストーリー性の高いシークエンス景観を提供できる優れた資源を有している。



歴史性

縄文時代の遺跡群(大船遺跡)

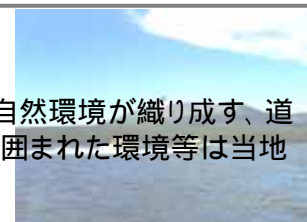
当地域には、青森の三内丸山遺跡と並ぶ大船遺跡(旧南茅部町)をはじめとした縄文遺跡群を有しており、道内では他に類を見ない特徴から、こうした内浦湾沿岸の縄文文化遺跡群は北海道遺産に指定されている。加えて、当地域は北海道開拓の礎を築いた先人たちの残した貴重な歴史遺産等が数多く存在しており、長年に渡って、こうした歴史資源の保全・活用が図られている。



自然性

大沼国定公園・恵山道立自然公園に代表される豊かな自然

大沼国定公園・恵山道立自然公園に代表される、火山・湖沼・海浜等の多様性に富んだ自然環境が織り成す、道内屈指の美しい自然景観や、四季を通じて身近な自然に親しむ機会に恵まれた山と海に囲まれた環境等は当地域における特筆すべき特徴である。



文化性

日本最初の開港都市としての歴史・文化

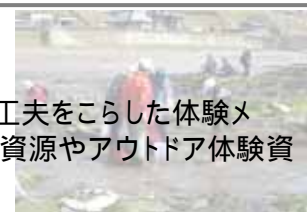
日本最初の開港都市としての歴史を物語る数多くの文化財や、異国情緒あふれる街並み、歴史と深いかわりを持ちながら育まれてきた、まつり・イベント、芸術・文化活動は当地域に住む人々、ひいては北海道民の財産となっているだけでなく、現在では貴重な観光資源にまで成長している。



レクリエーション性

地域資源を活かした体験メニューやマスツーリング

歴史・文化等の地域資源を活かした体験メニューやマスツーリング、大沼・駒ヶ岳周辺で工夫をこらした体験メニュー・アウトドアアクティビティが存在するものの、地域の海洋特性等を活かした体験観光資源やアウトドア体験資源に関しては開発の途上にある。



エリアの活動団体

活動団体20団体（平成17年3月26日現在）が参加しており、参加に向けて調整中の団体等もエリア内には複数存在している。



【写真】

平成17年4月23日開催のルートバスツアーの様子



表: エリア内の活動団体および活動分野

地域	活動団体	沿道景観	まちづくり	観光
函館市	函館商工会議所			
	函館国際観光コンベンション協会			
	函館湯の川温泉旅館協同組合			
	函館商工会議所 青年部			
	函館21の会			
	北海道オートリゾートネットワーク研究会			
	函館湯の川温泉旅館協同組合 青年部			
	NGO 函館自然観察会			
	NPO法人 スプリングボードユニティ21			
	NPO法人 どうなん学びサポートセンター			
	NPO法人 函館エコロジークラブ			
	活力ユニット			
	函館すぶれっと			
	函館菜の花プロジェクト			
	ふしぎな花クラブ			
北の縄文CLUB				
七飯町	大沼観光協会 (七飯町、森町、砂原町、鹿部町等の会員を含む広域的な団体)			
	七飯町商工会			
	NPO 北海道交流ネットワークかぜる			
大野町	大野町観光協会			

想定される活動方針設定の視点

美しい
景観づくり

従来の沿道の美化・緑化活動に加え、当地域ならではの良好な景観の発掘・検証を行いながら、地域の魅力を高めるような景観形成に対しての地域内における意識の醸成を図る取り組みを行う。

活力ある
地域づくり

芸術・文化活動を通じた地域内外の交流や、地域内での活動に光を当てる情報発信を行う。

魅力ある
観光空間づくり

従来の都市型観光と自然体験等の融合等による、当地域ならではの新しいアクティビティや、より楽しめるアクティビティの創出等により、地域内の周遊性を高める取り組みを行う。

想定されるルート運営の視点

美しい
景観づくり

知られざるビューポイントの発掘とその景観を形成する環境の保全
景観ポイントの創出および活用
沿道景観の美化・緑化活動
景観ポイントにおける案内・情報発信（景観の良さを倍加させる工夫）

活力ある
地域づくり

地域固有の資源の再発見を目的とした活動の展開
地域の人々の顔が見える情報の収集および発信
（地域内のまつり・イベント、芸術・文化活動等の旬の情報を提供）
ガイド・案内板等に係る検討
フォトコンテストの開催等による情報発信

魅力ある
観光空間づくり

知られざるレクリエーション資源の発掘
新たに見出されたレクリエーション資源の活用による新たな体験
メニューやアクティビティの提供
歴史遺産の活用（ヘリテージツーリズム等）
縄文文化にまつわる体験メニューおよびのエコツアーの創出
優れた自然景観、地域で提供されている体験メニューやアクティビティ
点在する歴史資源・施設・アクティビティ等をつなぐ役割を果たす
情報発信

想定されるルート運営の視点

ルート運営体制に関して

- ・当該ルートの円滑な運営を行うため、組織化を図りルート上での活動を推進。
- ・現在は20団体での運営であるが、他の関係自治体にも呼びかけを行い、4月下旬～5月上旬には幾つかの団体が参加する予定。
- ・参加団体のある自治体についても、さらに呼びかけを行い活動の裾野を広げていく予定。

地域資源の掘り起こしに関して

- ・地域の個性を活かしたルート運営を行うため、地域内の多様な資源の掘り起こしを目的とした活動を推進。
- ・資源の掘り起こしを契機とし、今後の連携活動やルート運営活動計画に活かすことを目的とし、4月下旬に、バスツアー（地域資源の再発見等）の開催を予定。

ルート内における活動の周知等に関して

- ・シーニックバイウェイルートの創出を目指す上で、より多くの地域の理解を得ながら活動を推進。
- ・地域への情報発信等による活動内容および活動中の団体の周知、地域への新たな参加呼びかけを継続。

今後の活動スケジュール（案）

	候補ルートにおける活動		ルート運営活動計画策定に向けた動き
	分科会	モデル活動	
4月	上旬		
	中旬	第1回分科会ミーティング(予定)	
	下旬		
5月	上旬		
	中旬		モデル活動の実施 各活動団体における従来までの活動を推進することに加えて、ルート全体としての取組みを実施 活動例 ・シーニックルートバス視察ツアー ・ビューポイント創出と情報発信 ・ホスピタリティ向上に向けた取組み ・歴史資源の活用 ・食に関する取組み ・既往沿道景観形成活動への協力 …等
	下旬		
全体会議・分科会開催 (ルート運営活動計画開始)			
6月	上旬		
	中旬		第1回ルート運営活動計画策定会議
	下旬	必要に応じて適宜開催	
7月	上旬		
	中旬		第2回ルート運営活動計画策定会議
	下旬		
8月	上旬		
	中旬		第3回ルート運営活動計画策定会議
	下旬		ルート運営活動計画策定案完成
9月	上旬		全体会議・分科会開催 (ルート運営活動計画の承認)
	中旬		沿線市町村長の意見聴取
	下旬		ルート申請